

新成人意見発表

本日、私たちが成人として人生を踏み出すにあたり、このように盛大な式を挙げて出発を祝っていただいたこと、また、ご多忙にもかかわらず、ご臨席いただきました小坂町長はじめ、ご来賓の皆様、お世話になった先生方に心からお礼申し上げます。

現在、北陸地方では1月1日に発生した能登半島地震の影響で甚大な被害が出ています。

そのような中、私たちが生まれ育ったこの酒々井町で、友人とともに成人式へ参加できたことへ嬉しさを今、噛み締めています。

私たちは生まれてからこの日を迎えるまでに多くの経験を経て、身体も心もこの20年間で大きく成長しました。20年間の中にはそれぞれ様々な時間を過ごしてきたと思います。

私自身、嬉しかったことや悲しかったこと、思い出に残ることなどを経験してきました。しかし、その中でも最も記憶にあるのは、「挫折を味わい、つらい日々を送ったこと。」です。楽しかったことや嬉しかったことよりも、今も鮮明に濃く記憶の中に残っています。また、4年前のちょうど今頃から始まった新型コロナウイルスの影響で、学校は休校となり、部活動の大会も中止になりました。当たり前前の日常を過ごすことができず、目標を見失った人もいたのではないかと感じます。そんな挫折した時や目標を見失った時に力になってくれていたのは、それぞれの周りにいた人ではないのでしょうか。誰かが声をかけてくれ、誰かが手を差し伸べてくれ、誰かがそばにいて励ましてくれたのではと思います。

その多くは同じような経験をしてきた大人の人たちだったのではないのでしょうか。自らの豊富な経験があるからこそ、困っている人や、つらそうにしている人に手を差し伸べることができるのではと考えます。

これから先、私たちは大人として社会に出ていきます。中には、すでに社会に出て活躍している人もいるでしょう。そんな時に、この20年という長いようで短いような時間で経験したことを生かして、困っている人やつらい思いをしている人に、そっと手を差し伸べることができる大人になりたいと私は考えます。

また社会に出ると、1日1日が目まぐるしくあっという間に過ぎ去っていく中、成人となった自分自身が一人前の大人になったと勘違いし、今まで当たり前に出ていたことが、出来なくなる、いや、やらなくなると聞いたことがあります。

特に「おはようございます。」「こんにちは。」などの挨拶や「ありがとう。」など感謝の気持ちを相手に伝えること。私はこの「コトバ」と「相手に伝える気持ち」をこれからも大切にしていきたいと考えます。

人は1日24時間を平等に与えられ生きています。毎日が悔いのないよう、そして毎日が当たり前ではないことを心に留めつつ、自らもそして他者からも素敵だと思われる大人になりたいです。

最後に今日まで20年間支えてくれたすべての人々に心より感謝申し上げ、新成人代表の挨拶とさせていただきます。

令和6年1月7日

新成人代表 山村 真穂